令和6年8月備前市教育委員会定例会会議録

1 開催日時 令和6年9月4日（水）
開会 午後 3 時 00 分 閉会 午後 3 時 30 分

2 開催場所 備前市役所 5階 会議室

3 会議区分 定例会

議席番号	職 名	氏 名	出欠
1	委 員	出 井 鉄 二	出
2	委 員	田 中 道 生	出
3	委 員	金 谷 美 圭	欠
4	委 員	原 田 千 暁	出

職 名	氏 名	出欠
教育長	今 脇 誠 司	出
総合教育部長	畑 下 昌 代	出
教育総務課長・放課後子ども教育課長	春 森 弘 晃	出
国際教育課長	守 屋 孝 治	出
小中一貫教育課長	谷 口 健 一	出
幼児教育課長	文 田 栄 美	出

6 付議事件 議案等付議事項のとおり

7 会議状況 議事録のとおり 傍聴人 なし 非公開 なし

8 署名委員 4 番 原田 千暁

9 書 記 教育総務課総務計画係長 川崎 誠

議 案 等 付 議 事 項

区 分	案 件 名
議案第22号	令和6 年度備前市教育関係補正予算の提出について
議案第23号	備前市立小学校及び中学校の通学区域に関する規則の一部を改正する規則の制定 について
報告第26号	令和6 年度全国学力・学習状況調査結果の概要について
報告第27号	人口減少について

教育長 委員の皆様には、台風の影響で延びました令和6年8月教育委員会会議定例会にご出席いただきありがとうございます。ただいまの委員の出席は、4名であります。定足数に達しておりますので、令和6年8月備前市教育委員会会議定例会を開会します。

委員並びに出席職員に申し上げます。

本日の教育委員会会議に傍聴を希望されている方がおられます。

備前市教育委員会会議規則第15条の規定により、会議は公開することになっており、教育長の許可をもって傍聴を認めることとします。

なお、議事・発言内容に係る委員会の協議は、申し合わせに沿って行います。

それでは、傍聴人の入室及び会議の傍聴を許可します。

委員並びに出席職員、そして傍聴者に申し上げます。教育委員会会議の議事等会議は、人事、争訟のほか、市議会の議決を経るべき事項の原案、個人・団体情報を公開することにより個人の権利利害を害するおそれのある事項、例示いたしますと、問題行動や児童生徒指導上の案件などにあつては、委員会の議決をもって、非公開といたします。

非公開審議の事例は、かなり繁雑にありますので、あらかじめ、ご承知おき願います。

委員会会議規則及び委員会申し合わせにより、議事内容や発言内容に関する指摘は、あらかじめ分かる場合は、教育長から発議し、そうでない場合は、発言途中であっても、委員並びに出席職員からの発言を認めますので、教育長にその旨を告げていただき、私から発議するなど所要の手続きを行いたいと思います。

なお、会議を非公開とする旨の議決があつた場合、休憩中の委員会協議などの場合は、傍聴人は職員の案内に従い、速やかに退室していただきますようお願い申し上げます。

非公開審議又は休憩中の委員会協議が終了し次第、あらためて入室を認め、ご案内いたします。以上、よろしく申し上げます。

次に、教育政務の報告をいたします。

それでは、議事に先立ちまして、7月定例教育委員会会議以降の教育行政の概要について報告をいたします。

7月28日、アメリカの歴史・伝統・文化を体験するツアーの最終説明会に参加し、ご挨拶を申し上げます。

7月29日、岡山地方法務局山下備前支局長、備前人権擁護委員協議会谷口会長、また人権擁護委員1名との懇談会を教育長室で実施しました。

7月30日、一般財団法人備前市文化芸術振興財団の令和6年度第2回評議員会が開催され、出席いたしました。

7月31日、京都府福知山市の福知山城を訪問し、スポット方式の空調設備を視察してまいりました。同日、市役所で実施した、電子黒板の展示会に参加しました。

8月4日から8日まで、アメリカの歴史・伝統・文化を体験するツアーに参加し、見聞を広める子供たちに同道してまいりました。

8月9日、鳥取県日野郡江府町で実施された「全国施設分離型義務教育学校の集いin江府町」に参加してまいりました。施設分離型義務教育学校の利点を活かした実例等についての発表を聞くことで、今後の小中学校の義務教育の在り方を考えていく良い機会となりました。

8月18日、オリックス・バファローズ応援・観戦ツアーに参加し、市民の皆様にご同行してまいりました。

8月20日、本市で開催された福島県磐梯町の旅する副町長である菅原尚敏（すがわらなおとし）氏の講演「「脱デジタル宣言」～旅する副町長による働き方を再デザインする磐梯町の挑戦～」に参加し、その後、続けて意見交換を行いました。

8月22日、定例校長会に出席いたしました。

8月23日、熱中症予防対策や、また、飲料するための紙コップなどのごみ削減対策など環境への配慮を生徒・児童に意識してもらうことなどを目的に、市内全小中高校に、ウォーターサーバーの設置を開始しました。この日、最初に設置を始めた東鶴山小学校でウォーターサーバーを確認してまいりました。

8月24日、熊沢蕃山先生を偲ぶ会に参加し、遺徳を偲んでまいりました。

8月28日、片上地区で開催されたつながり交流会に参加し、意見を交わしてまいりました。

また、この間にも、個々に、各小中学校や関係施設を訪れ、施設の確認を行ったり、各学校長やPTA会長等地域との協議の場に参加して、意見交換等を行ってまいりました。

以上で、教育政務の報告を終わります。また、この間にも、個々に、各小中学校や関係施設を訪れ、学校長等との協議、施設の状況の確認等を行ってまいりました。

以上で、教育政務の報告を終わります。

それでは、早速、議事に入ります。

まず、1番 前回定例会会議録の承認ですが、令和6年7月定例会の会議録について、委員の皆さん、何かお気付きの点はございませんか。

教育委員 （異議等なし）

教育長 ないようですので、令和6年7月定例会の会議録について、承認することといたします。

次に2番 署名委員の決定ですが、今回は4番の原田委員、よろしくお願いします。

引き続き、3番 議案等付議事項について審議を行います。

それでは、議案第22号 令和6年度備前市教育関係補正予算について 事務局から説明願います。

教育総務課長。

教育総務課長 はい。議案第22号、令和6年度備前市教育関係補正予算についてですが、教育総務課所管分をお伝えいたします。教育総務課所管分としましては、小学校管理運営事業、中学校管理運営事業で、機械器具備品として新たに体育館に設置する空調設備をおよそ1億円、予算として計上しております。こちらの方は、先ほど教育長の政務報告の方にもございましたが、福知山城の空調設備を視察したり、それ以外の業者の空調設備の話を知りながら、現時点で、その中の1つのものを基準として見積もりを取っておりますが、自治体としては入札をしてみたいと考えております。以上になります。

教育長 幼児教育課長。

幼児教育課長 こちらにつきましては、香登認定こども園の実施設計に必要な委託料です。香登認定こども園につきましては、これまでの大内を含めた地区全体として、移転候補を検討してまいりましたので、この度、実施計画の実施設計の委託料として挙げさせていただいております。以上です。

教育長 はい。それでは、議案第22号についての説明が終わりましたが、何か質問はございませんでしょうか。

教育委員 体育館の空調設備ですけど。工事の入札があると思いますが、工事完成はいつ頃の予定でしょうか。

教育長 もちろん。これからです。私の答えではなく、教育総務課長。

教育総務課長

こちらの方、予算計上しているところなんですが、先ほど言いましたような部分も踏まえた形で、最終的な仕様確認の上、入札等してみたいと思っておりますので、1番基本的に目指しているのは、冬の卒業式シーズンには最低でも入っていたらいいなと考えております。

一応想定としては、夏だけの冷たいスポットクーラーではなくて、移動型のエアコンのようなものを考えておりますので、卒業式等にも使えたらいいなという形で考えております。

実際はまだまだそこまで特定はしておりませんが、そういった検討をしておる形になります。

以上になります。

教育長 この場でちょっと補足説明いたしますけれども、先ほどの福知山城は、教育政務報告で述べましたけれど、一応見てきています。ただ、機器をそれで固定するかどうかというのは、まだこれから議会で審議いただく中で確定してくると思います。また、そういう展示会なんかもあります。

他にございませんでしょうか。よろしいですか。

それでは、議案第22号のこの補正予算の内容につきましては承認をしてよろしいでしょうか。異議がないということでございますので、議案第22号については承認することといたします。以上で議案第22号の審議を終わります。

それでは、議案第23号、備前市立小学校及び中学校の通学区域に関する規則の一部を改正する規則の整備について、事務局から説明願います。小中一貫教育課長。

小中一貫教育課長 小中一貫教育課から、備前市立小学校及び中学校の通学区域に関する規則の一部を改正する規則の制定についての提案です。資料の3ページから5ページをご覧ください。近年、家庭の家庭状況の多様化により、保護者と子供が別の住所であるケースが増加傾向にあります。現状、備前市では保護者の住所で学区の指定を行っております。

近隣市町では、保護者の住所ではなく、子どもの住所で学区の指定を行っております。そのため、備前市では、他の近隣市町と比べ、区域外通学にかかる申請と必要となる手続きが多く、関係自治体との間におけるそのやり取りに時間を要している現状にあります。このことにより、子どもが学校に通えない期間が生まれ、子どもたちにとって不利な状況となることも考えられることから、小学校及び中学校に入学するものの就学すべき学校の指定について、他の近隣市町と同様に子どもの住所で学区の指定をする内容に改正したく、この度提案させていただきます。ご協議よろしくお願いたします。

教育長 それでは、議案第23号についての説明で終わりました。何かご質問ございませんでしょうか。実態に応じるところだろうと思います。

それではないようですので、議案第23号、承認してよろしいでしょうか。

それでは、異議がないということでございますので、議案第23号については承認することといたします。以上で議案第23号の審議を終わります。

次に、報告第26号、令和6年度全国学力学習状況調査結果の概要について、事務局から説明を願います。

小中一貫教育課長 では、7ページ以降をご覧ください。令和6年度全国学力学習状況調査の結果の内容について報告させていただきます。本調査は、4月18日の木曜日に、小学校6年生183名、中学校3年生161名が受験しております。

学力調査の結果分析につきましては、1番としてこのページ以降に、データにつきましては10ページの3番に記載をしております。

概要といたしましては、小学校国語、算数、中学校国語、数学、どの教科におきましても、全国、県の正答率を下回っております。正答数1問の差と正答率の関係から、小学校算数と中学校国語については、ほぼ同等の正答率であると考えられます。一方で、小学校国語と中学校数学については課題が明らかなものとなりました。平均正答数の分布を見ますと、本紙の分布の様子はほぼ正常曲線です。1番多い注意層の子どもたちを伸ばしていくという日々の授業が重要であると考えます。これらの結果からも、9ページにございます2番、学校及び市教育委員会の取り組みに記載しております通り、指導訪問や校内研修等を通して、現在進めている授業改善等の取り組みについて、まずは手綱を緩めることなく継続、推進することが大切であると考えています。

また、合わせて、校長の学校経営の支援及び教員の人材育成についても、市教員として随時取り組みを見直してまいりたいと考えております。なお、本日の結果の概要の資料につきましては、今後ホームページで公開する予定となっております。

教育長 説明が終わりましたが、委員の皆さんで何かご質問はございませんでしょうか。小学校の国語と中学校の数学が特に比較的悪いというところですけど、何かご質問ございませんでしょうか。

教育委員。

教育委員 質問ではないですけど、あの日頃から、先生たち子供たちに向き合っていて、課題を克服するために、課題に対しての対応っていうのをしっかりやったださっているなっていうのを考えます。しかし、成果がなかなか現れないというところが苦慮されていることだと思います。新聞紙上にも、岡山県下の状況が出ていました。やっぱり下回っているというところですが、引き続き同じ対応で対策されていくと思いますが、近隣市町村とか、その全国を上回っている、平均を上回っているその市町村の取り組みも参考にしながら、子供たちのために頑張っただけいたらありがたいと思います。以上です。

教育長 全くその通りだと思います。ありがとうございます。あと、この取り組みについて具体的な方策をもうちょっと掲げていく必要があるのかなという感じがします。

他にございませんでしょうか。よろしいですか。しっかりその辺り、具体的な取り組み状況で深めていただけたらと思います。

それでは次に、報告第27号人口減少について、事務局から説明をお願いします。

幼小中高一体校準備室次長。

幼小中高一体校準備室次長 はい。今お手元にお配りした資料の方になりますが、二次元コードとか書いてある、ここから説明させていただきます。6月ぐらいから、この少子化の関係の人口減対策とか、そういった状況を踏まえた教育委員会としての今後のあり方について少しずつ議論していこうという話をさせていただいて、色々な課題をこうして報告させていただいて、委員の皆さんに議論をいただいているところでございます。

そんな中で、先ほどの教育長の政務報告の方にもありましたが、8月9日に鳥取県の江府町の方で開始されます、全国施設分離型義務教育学校の集いイン江府町というのがございまして、そちらの方に教育長と私の方で出席してまいりました。

この集いの目的ですが、趣旨、施設分離型義務教育学校の利点を生かした実践等について、協議、交流を通して、それぞれの市町村、学校において今後の教育実践につなげるとともに、今後の全国の市町村における小中学校の統廃合を見据えて、義務教育学校のあり方を考えていく機会にしていくことを目的としたものです。

裏面に入りまして、この集いでは、3つの施設分離型の学校の校長先生が来られて説明をされたが、江府町の奥大山江府学園、鳥取市の鹿野学園、京都市の東山泉小中学校の3つになります。

この校長先生方から、分離型の義務教育学校の特徴を生かす取組発表がございまして、この分離型の学校、全ての学校が5、4制、初等部1年生から5年生、中等部6年生から9年生という学校をしておりました。ポイントとしましては、一体型、義務教育学校になった時の一体型につきましては、県内でも進んでいる学校は、一体型もございまして、分離型を取られているような学校もございまして。総社市などは分離型を取られておりますが、一体型というのは小学校を卒業するという達成感が感じられにくくなる。分離型は、校舎、キャンパスを移動する年次に式典を開催して成長の実感が得られる。一体型は、5年生や6年生は真ん中の学年にあたり、リーダーシップや自主性を養う機会が減ってしまうとされております。

分離型であれば、5年生がキャンパスの最上級生となりリーダーシップや自主性を養い、6年生も中等部の第1学年としてリアを高められることという部分が、校長先生からのメリットとしては言われておりました。反面、分離型につきましては、校舎、キャンパスが異なることで、一体型に比べて交流が少なく、校舎ごとのルールができたりする。また、教員との連絡が取りづらくなり、校舎の移動問題が課題となるというのがデメリットというか課題として挙げられておりました。

そのうえ、確認した時ですが、この奥大山江府学園日野川校舎につきましては、やはりそのまま学校の施設を維持するのではなく、大規模改修により内装や備品等も綺麗な校舎となっており、義務教育学校開設の際は児童生徒が新たなことで通学できる環境整備が大事となると考えております。集いに参加しての報告になります。以上になります。

教育長 委員の皆さん。今の説明の中で何かご質問がございませんでしょうか。

教育委員。

教育委員 一貫教育との兼ね合いですよね。どれを取るかというのが結構難しい問題と思うのですが、中学校から、9年生ですかね、その辺にするか、5－4制にするか、これから研究をしなくてはならないと思うけど、教育委員会の備前市としてはどちらの方に向かって進めていけるのでしょうか。

教育長 私も参加してきましたけれども、いずれにしても、今の形は連携の形を取っていますが、依然として小学校6年と中学校3年はそのままですから、一貫した教育は、9学年が繋がっている形まで完全に移行してない。この義務教育学校で行くと、一応その9年間で繋げる中で、他の4-2-3という形を、山南学園、岡山市の南の方のところではとっていますけれども、前回のパンフレットですと、それぞれ総社市の5つ星学園と、それから美咲町の柵原学園のパンフレットを資料としてお配りした。ああの形でいくと、柵原学園の方が1か所で、この中で一体型の9年間になっています。

分離型の方は、施設は分離した状態なのですが、6年生が中等部という形でアクティブキャンパスという形での義務教育学校だから、9年間で作ると、義務教育学校として、区切りはどこに持っていくにしてもやれると、教育課程を作り上げている形になっています。備前市も今は小中の一貫教育という形で進めておりますけれども、最終的には、鳥取県とか島根県もそうなのですけれども、少し子供の数が減っているところはこの形をとって、教育に特色を持たせて一体にして、一体により近づけていこうという形をとっています。今後も、児童生徒の減少という意味の人口減少ですから、子供たちが減ってきているので、こういう形で教育の質を高める必要があるのかなということ。それぞれの学校では今かなり少なくなってきて困っている実態がありますので、最終的には日本の人口がどんどん減っていくので、この形に全部になっていくのかなというところでございます。そこは早く手を打って、こういう形に持って行って、子供たちの教育の質を維持していく必要があるのかなという風には考えています。そういう意味で皆さん方に前回の2つのパンフレットをお配りしましたが、今回はこういう形でメリット、デメリットの特にメリット部分で、この集まりは分離型の集まりなのでメリット部分の強調は強いかなとはもちろん思うのですが、こういう形でまた参考にして、考えをどういう風に持っていったらいいかというところで参考にしていただきたいということで説明がございました。

備前市としても、こういう形に持っていく必要があるのか、皆さんにしっかり審議していただいて、ディベートして固めていったらいいのかなと思います。これを参考に。他に何かございませんか。ご質問等ありますでしょうか。

教育委員。

教育委員 いろんな議論があつて難しいのですが、この問題は。備前市だけでというわけにはいかない。ただ、やっぱり備前市の特色を活かして方向性は決めていかなきゃいけない。こういう感じは、専門家ではないですけども、思います。で、今も国際バカロレアとかそういう、流れの中で、今までと同じことをしていたらいけない。じゃあ何をするのかと。難しいですね、これ。まず、現状から考えたら、旧備前市だけでも地域があつて難しいわけですよ。地域ごとに小学校があつたという仕組みが多分もう成り立たなくなるのじゃないかなという感じはしますね。そしたら、その中で答えを見出すのは難しいけれども、私個人で言ったら、あんまり地域にこだわらない、地域全体でかからないとダメだろうなという感じはするのですね。でも、

そういう時代に多分来ているのだろうなど、我々の特に頭の中ではね。自分も育ってきた、今までのもの、頭にこびりついていきますから、その点取っ払って考えていく必要があるかなというの、思いますね。

教育長 今のお話でいきますと、やっぱり前回お配りした柵原学園の形がいいだろうと。

教育委員 ただ、面白いと思う。

教育長 地域の核のところとして小学校は残していきたいということになると、5つ星学園のような形になるのです。過渡期的に5つ星学園のような形にして、最終的には、子供が少なくなり辛抱たまらないようになるとやっぱり柵原学園みたいな形になるのかなとは思いますが。

それを教育に携わる教育員さん、教育に携わるものが頭にイメージしておいて、この数になったらこれにするっていうのはなかなか一概には決められないと思うのですが、イメージしていく。他の地域で子供が減ったところはやっぱりこうやっているのだからっていうのが1つの事例なわけです。

だから、今度の視察の方については、どちらかというと5つ星学園の形に近い。施設は分離してあるのだけど、6年生だけが中等のところに入り、これが1番良かったですよっていう感じにはなっています。

最終的には柵原学園のような形に持って、いかざるを得ない時が来るのかもしれませんが、すぐはストレスが掛かり、小学校をとりあえず残してという形が今は、まだまだ強いところがございますので、研修で行ったところのような形、5つ星学園のような形にしていかざるを得ないところに来ているのかなという風に思います。

エリア的にも、備前中のゾーンとそれ以外のゾーンが、大体2つのゾーンが最終的には形成されて、大体同じぐらいの子供の数になって、そろそろ柵原学園みたいなのができる時になるかなという気がしないではないのですが。

教育委員さんの三石ですと、小中それぞれ減ってきていて困っていることもあるように聞いています。私も先ほどの教育政務の報告なんかで最後に言いましたけど、PTAの人と任意で集まる場を作っていただいたりして、呼ばれてお話も伺っています。

PTAの保護者の目線では、やはりある一定規模の学校規模にしてほしい。地域の衰退よりも、そういうところに、やっぱりどうしても我が子、我が子ですからいうお話がございますので、そういうお話も受けて、また1つ前の学力の話もありますので、教育課程を考えながら、子供たちのためにどのスタイルがいいか構築していく必要があるかなと思います。

前回、前々回とこのテーマがあるのですが、さらに深めていただけたらなと思います。

実際にこの後、その他のところでお話が出てくるのですが、全部関連していて子供の数が減ってきているからこれをしなきゃいけないというような、実際に進めていくところに来ている。そういう土俵に乗って走っていかないと、気が付いたら、少人数で残って、校舎が古くなって雨漏りして、エアコンが壊れるみたいな学校ばかりになっていくような気がしますので、早め早めに準備をしていきたいなと思います。どうぞ、この機会に、議論深めていただいて、

何が1番いいのか、もうそろそろ教育委員さんに言われるように、実はもう一気にそういう形にするとこに来ていたのかもしれませんが。小学校それぞれ、その辺りは抵抗感があると思いますので、そこも考えながら、この場でも話を置いて進めていく必要があるのかなと思います。他に質問、ご意見等はございますか。

教育委員 話を聞いていると、今頭に置いておけばいいのか、この問題を進めるのかっていうね。

教育長 こうやって情報を頭に置いて入れていくのですが、進めていくべきところに来ていると思います。

教育委員 ではいつまでにどのように、今資料というか材料を今集めて、研修もいきますから、人口も減少しています、児童生徒の数も減ります、そこで今度は何が必要なのか、いつまでに何が必要なのかと。保護者対応や、よく新聞紙上には検討委員会を立ち上げましたと最近よく出ていますが、では、備前市は、現状を踏まえていつまでに、どう取り組むのかを、ここだけでは結論は出ないので、どの組織とどの組織が検討し合って、そちらにいつまでにどの程度まで進めるのかっていう面を、何年までだったか備前市教育未来創造会議というものがあつたと思うのですけれど、そこで教育の創造していくのが議論されてきたように思うのですけれど、そういう会議等を利用するとか、ここだけで色々ぐるぐるしても、みんなで案を持ち寄って一応はその方向性を決めるとかが。

ほぼ一定しか私なんかは見えないので、みんなのその情報とかを集めて、どう対策していくのか、取り組んでいくのかという場が 計画的に設けられたらいいのじゃないかなという風には思います。

教育長 はっきり言いますと、この場が1番そういう位置付けとしては強い場なのかなと思っています。また、市長部局で、市長が加わって総合教育会議もあります。最終的なものに近づく。これも近々開こうということになると思います。市長部局の方が招集をかけますのでこちらから言うものでもないですけど、こういうこともあるので開こうかなというような話にはなっている。最後の方で言う予定にしていたのですけど。

よって、そこに行くまでにそれなりの知識を受けとっていかないといけないのもあってこういう話をしています。分離型のメリットっていうのはこういうことです、分離型での課題はこうですと。それを知った上で進めていくように。あと小学校を残した状態で中学校を例えば寄せていくとかです。そういうことを議論していく必要があるのかなと思います。今の小中一貫で言うと、各中学校、今の形はそのままになっていて、1番直近で簡単なシンプルなことかというと、例えばですけど、三石は、一貫校で名前はもう三石学園になっています。あと6年生のカリキュラム、授業のとこだけこういう形でおろしてもらっています。教科担任として。それから、伊里ですと道路で離れていますから、6年生だけが例えば伊里中学に入る、あるいは全部入って、物理的なものもあるのですけど、そういうところも決めていかないと、周りがそうなっていても岡山の中心部は困ってないかわからないでしょうけど、気が付いたら周辺の、例えば県の北

部であるとか実際かなり進んでいますけど、井原、笠岡、玉野。備前と同じように、岡山、倉敷と間の総社のような人が安定的にいるところ以外のところは同じような状況になりやすい。

その中で後塵を拝するというか、1番最後になったな、「うちももう1クラスが数人になったわ」みたいな感じでやるのか、今からちゃんと見据えてどういう風に作っていくのか。自分の時じゃない、将来先送りしてしまえというやり方は良くないことです。今の備前市がそういう状態になっているかもしれないと思うんですけど、今の各学校の数について統廃合の話もあつたと思いますが、改めてそういう形で最近増えてきているこのやり方の中で、先進地の成功事例を学んで、同じような形も進めていくべきです。

この会議はポジション的には決定権のある場になりますので、できれば、出井さんも既に言われました、そういう形で持っていったらいいのではないかなと。教育委員長もしかりって書いてあると思うんですけど、色々従事するのはなかなかしんどいことになっていくかなと思うんですけど、今から準備していく。早くしないと子供たちはどんどん少なくなったまま卒業していきます。学力にそのまま結びつくかどうか一概に言えないですけど、そのような状態に持っていく必要があるのかなと思います。

美咲町や総社市はちゃんと考えていた教育委員会、備前市はあまり考えていない教育委員会だったということに歴史が証明するかもしれません。その時に誰が携わっていたかということになるわけです。後塵を拝しないように、遅れないように準備していく必要がある。その辺りを考えていきたいと思います。実は、私もこの研修から帰ってちょっと作ってみました。どういう形が得られるか作ってみました。時期早々かもしれませんが子供の数を入れて作ってみました。また見ていただいて。次の機会ぐらいには、テーマにし、一緒に固めていただくぐらいの気持ちで臨んでいただけたらいいなと思います。よろしいでしょうか。他にございますでしょうか。教育委員さん、よろしいですか。

教育委員 さっきの件ですけど、小学校とか中学校とか、なんか非常に地区の人がね、怒るのですよ。だからその辺をよくフォローしてない。色々情報発信をして進めていただけたらと思います。

教育長 はい。この後、子供の数が減っていることに関連して、その他のところを説明する予定です。

それでは、引き続き、議事4番、 次回の教育委員会議の決定についてです。事務局案を説明願います。

教育総務課長 はい。9月の定例会につきましては、9月26日木曜日、お配りしているのは多分27日になっているのですが、26日木曜午前10時からで、場所は市役所4階の部屋で開催することを提案いたします。

教育長 それでは、次回の定例会は9月26日木曜日10時から、この下の4階の部屋で、開催ということではよろしいでしょうか。スケジュール確認していただけたらと思います。

それでは、次回の協議会議は9月26日木曜日10時からということで、開催をいたします。また、先程言いましたように、市長部局の総合教育会議を予定しており、日程を調整中でございます。そちらの方もご出席いただくこととなります。できれば一緒にしたかったのですが、なかなか難しい感じですのでまたご案内いたしますのでよろしくお願いいたします。次に、5番の9月の行事予定及び共済公演予定について事務局から説明をお願いいたします。はい、教育総務課総務計画係長。

教育総務課総務計画係長 青少年健全育成啓発カレンダー、お配りしているかと思うんですが、こちらの中にも、9月、10月については、体育会であるとか発表会であるとか、合唱祭であるとか文化祭であるとか、小学校、中学校、こども園、それぞれかなりの多くのイベントが予定されております。それから、秋季の総合体育大会なども中学校では開催されることとなっておりますので、教育委員さんが出席できるようなものも多数あるかと思っておりますので、その辺り、ぜひ現場というか、実際にこう小中学生がやっている姿とか、一生懸命やっている姿を見ていただく機会になればいいかなという風に感じております。

あと、共催とか後援についても、9月については体育行事とか文化行事について出す対応をしておりますが、教育委員がやられている10月でイベントもあつたりしますので、またその辺りも皆さんご参加いただければと思っております。以上です。

教育長 こちらの方につきましてご参加等よろしくお願いいたします。

その他で、先ほど申しましたように、関連して、学校の人口減少等に関連して事務局から9月定例会も含めて色々事業の予定がございますので発表の方お願いいたします。

教育総務課長 それでは、教育総務課の方からお伝えいたします。で、先ほど人口減少の中の学校のまず5-4制とか、義務教育学校になるような話もありましたが、そういったハード的なものではなくて、ソフト的な面からの説明をさせていただきます。現状、教育長が、いろいろ学校の方を回って、校長先生と、先ほどありましたPTAの非公式な形ですとか、色々お話をさせていただく中で、今現在、規模がそれぞれ異なる中、今、備前市は成り立っているのをご存知だと思います。そのため、事業が円滑に実施しやすい学校とそうでない学校がございます。その中の1つの課題として、実は制服という問題があります。

一定の規模の学校につきましては、自分の学校の制服をオリジナルに近い形で見直しをすることが、制服メーカーの方もそれなりの自分たちで作って売れるという形になりますので、対応していただけるんですが、規模が小さくなると非常に難しい状況となっております。

そのため、その規模の小さい学校は、LGBTQやSDGsを踏まえた新しい時代に対応したものに非常にしにくい部分があるのはご理解いただけたと思います。

こういった状況を踏まえて、現在、教育委員会としましては、既存の制服と、今現在ある皆さんの学校で認定した制服とは別に、新しい共存できる形の新たな選択肢の1つとしての制服の方を作るんですね、市内全体の連帯感や公平性を保つことを考えた共通制服を作りたいと検討しております。

こちらの方法のやり方とかは、兵庫県の明石市がそういった形で市内全体に共通する制服を作られた手法を参考にしております。また、現在、県内でも、例えば玉野市などは中学校自体を制服全部統一している状況もございますので、こういった形で、1つの取り組みとして、将来的なハード的な統合なども視野に入れながら、共通の制服を作った形で、皆さん、市内全体か、生徒児童生徒が、一体感を持った体制にしていけたらなと考えております。私からは以上になります。

教育長 最近、新聞に出ていたと思いますが、玉野市さんでしています。明石市さんの情報はあまり入ってこないですけど、玉野市さんも中学校の全部を統一していて、ネクタイ等で学校を見分けることをしています。備前市でも校長先生とかと話している中で、そういうご相談がありました。小規模校では、業者が来てくれないということで、その中で、玉野市さんとか明石市さんの話があり、備前市も統一版を作ってはどうかということで、そういう話の中で、作りましょうかみたいな話をしたら、それいいですねということで、進めていただきたい話がありました。教育委員会がプロポーサルとかを段取りしてやるように考えています。その中で、例えばLGBTQで、ズボンでも、男性用のズボン、女性用のズボン、男子生徒、女子生徒とも資料とちょっと変わる感じになると思いますので、そういうところまでディテールはちょっと踏み込んでいきたいと思っています。

合併20周年の年なので、できればこの年にやりたいなという風に思っていて、PTAを集めて話さないといけないというお話も出しています。備前市の3色のストライプが入って、上はブレザーで下はチェックの柄。こんにちのトレンドなのでしょうから、そういう形のものでどうでしょうかという話で検討しています。そういうものをまたPTAの方々に見ていただこうとしています。

デザインも袖や襟のところを、交通安全上、ライトに当たると光るという形でしょうと思っています。車のライトで光ると安全性の高い。素材もできればリサイクルに適した素材であったり、同じ制服にすれば中学校、小学校行っていた人がバザーに出し、他の学校の人が利用できるように、そういう形にもしたい。LGBTQとSDGsという形で、あと安全性を重視したような形にしていきたいと考えています。これから20周年の記念ということですので、準備して行って、すぐに使ってくれるところばかりでは、当然ないんです。7年度から、備前中学校は新しく制服を決めています。令和に入ってから、日生中、吉永中が新しい制服になっています。だから、中学校の方がちょっと厳しい。

小学校と中学校の違いはというと、そのシルエットもあるんですけど、小学校では半ズボンがいるかなというのと、スカートにはサスペンダー、上着は襟なしです。学校をどうやって見分けるかでは、中学校では、ネクタイやリボンで学校の色を分けてあります。小学校ではそれはしないので、エンブレムで、バリバリと剥がせるもので校章が入ったものに。そうすると、エンブレムを剥がせばフリマのようなどころにも出してもいけます。エンブレムだけは卒業の

記念に持っておく話も出ていました。そういう形で準備し、年度末までに何とか準備して、新年度、子どもの数の少ない学校の参加を促して進めていきたいなと思っております。

何かご質問等ありますでしょうか。

教育総務課長 あとはですね、先ほど教育長から説明がありましたウォーターサーバーですが、伊部小学校だけが2台入っております。あと他の学校には1台。今現状入っている状態で、使えるものは冷水と常温水が使えるものになります。暖かい水につきましては、児童生徒が火傷したりする問題があつてはいけませんので、温水が出ないものを導入しております。また、今現在、片上高校に導入で着たらという形で今現在調整中になっております。一応、市内、市が関与する学校には一律で置けたらという形で進めております。はい、以上になります。

教育長 9月に入ったんですけど、まだまだ暑いので、朝、家で水筒に冷えた水入れて学校来られると思うのですが、昼の給食以降に例えば飲んで減ってきた、あるいは下校時で、暑い中、もう無くなった、冷えたお水がなくなって足りなくなっているという状態がないように、帰りはそこで入れて、学校の帰りに喉が乾いたらすぐ飲むというような形で熱中症対策を。まだまだ暑いので、30度超えている日が続いているので、使っていただくという風に考えて設置したところです。そういう感じで順次準備しております。

また、PTA会長さん校長先生とお話する中で、どうしても子どもの少ないところは修学旅行も実は組めないそうです。修学旅行を働きかけても、旅行業者が、どこの学校のことかわかると思うんですけども、儲からないというか、数人の修学旅行生では、業者が請け負ってくれないと非常に困っておられました。校長先生が非常に困っておられましたので、ここも考えていく必要があると思います。備前市内の小学校の6年生、あるいは中学3年生、修学旅行もまとめて行くように形にしたら、値段は抑えられると思います。少ないところは団体割引にならないし、量の間一間みたいな感じになると。先程のように、学校を一体校としていけばそういうことは自然と克服できるでしょう。海事研修とかは、一緒にやっているんですかね、合同で、ああいう風にしないと。船に全員乗って漕いでもあんまり前進まないみたいな状態になり、地引網しても先生が引っ張る感じのことが起こってくると思います。その辺りを考えていただければと思います。今までその辺りからできてないんじゃないかなという風なお話を聞いています。

それでは、他に何かございませんでしょうか、どうぞ。国際教育課長、ワークショップの報告を。

国際教育課長 それでは失礼いたします。国際教育課から、この夏、7月の23日から8月の8日までの平日13日間、市役所内の会議室、会議室の手、小学校、中学校の教職員を対象とした国際バカロレア機構IBO主催の研修会、ワークショップが行われ、181名の先生方が参加をされました。内訳は、中学校の先生方が62名、小学校の先生方が119名で、ほぼ常勤の先生方にご参加された状況になっています。

また、同期間中にさいたま市と仙台市において、新たに異動でおいでになられた校長先生3名、それから新たに任命になったコーディネーター4名を対象にしたワークショップに参加をさせていただいております。ワークショップでは、IBOより派遣されたリーダーが5名担当していただきまして、非常に有意義な、まさに参加者はIB教育の特徴を探究的かつ熱心に学ばせていただきました。今回のワークショップで終了後にアンケートの調査をしておりますので、現在集約している最中です。まとめましたら、また教育委員会の方でもご報告をさせていただこうと思っております。以上、報告のみさせていただきます。

教育長 はい、ありがとうございます。たくさんの参加をいただけてよかったなと思います。またアンケート結果は、次回には振り返り議論をしていただけたらと思います。

他にございませんでしょうか。

教育委員 ちょっと雑談で結構ですけど、例のアメリカの体験ツアーですけど。はい。なんか行かれた方があったら感想をちょっと聞かせてもらいたいんですけど、どんな具合だったか。

教育長 私だけですが、大変疲れたのが正直なところですよ。なぜ疲れるかっていうと、やはり子供たちは、初めて会うメンバーで、年齢も、おそらく想像ですけど、誕生日の関係でいけば、12歳から18歳の幅です。

昨日も国際協力のメンローパークに行った報告会があったのです。グループ単位というのがやはり1番良いようです。グループ単位で、4人ないし6人ぐらいでグループ、だんだん慣れてくると、ちゃんと機能するようになります。大変気疲れしましたがけれども。子供たちは、飛行機が出る時からですね、初めてバーンって上がる時に、わあわあ言っていました。初めてのそういうところから、良い経験をしていると感じました。入国の時は、必ず入国審査で1人ずつ行きますから、なかなか手間取る方がいたりしてね。18の子は英語力も相当あるでしょうけど、時間かかる子もいるのです。それも非常に良い経験をしたと思います。また、それぞれ研修にふさわしい場所へ行くのです。日本人の先住した人たちの苦労とか、文化というか、そのルーツを学べる所であったり、カイトックの日本から行った企業の日本人のスタッフが頑張っている現地の労働している人たちを指導したり、運営して、ジーンズの加工をしている岡山県の企業です。そういうところに何か所も行くので、そのたびに集合かけるとなかなか本当に目が離せないですけど、良い経験をしている機会が多い。間で買い物のところへ行ったり、食事をするところなどもやはり英会話でやりましたので、非常に良い経験になっていると思います。喋らざるを得ない、喋る、知っている単語を並べる、それで十分だと思って見ていました。いろんな場所に行って体験して、グループでの行動も身について。職員も全5日間を相当な体験を重ねて帰ってくれたのではないかなという風に思います。

全員が無事に帰ってこられたというのは非常に良かったと思っております。感想としては、子供たちにとって最高の体験になったという風に思います。

他にございますでしょうか。なければ、以上で8月の教育委員会会議定例会を閉会いたします。皆さん、お疲れ様でした。ありがとうございます。

備前市教育委員会会議規則第16条第2項の規定により、下記に署名する。

会議録署名委員 教育長

委 員